

学校給食費無償化へ

市民とともに議会うごかす日本共産党市議団



6月定例会本会議 みつなか美由紀議員

6月22日の本会議で、みつなか美由紀議員が学校給食費の物価高騰分を補助する補正予算について質疑を行いました。

今回の補正予算は、物価高騰の中でも保護者負担を増額せずに現在の給食の水準を維持するため、高騰する食材費の支援に必要な経費を国の地方創生臨時交付金を活用して2023年度当初予算にさらに増額するものです。

みつなか議員は、物価高騰の中での経済的な負担を軽減するとともに、すべての子どもの教育を受ける権利を保障するために、小学校給食の無償化に向けて検討をすることを求めました。

「金持ち優遇になる」と繰り返す市長

みつなか議員の「国の地方創生臨時交付金を活用して期限を切っても(市の)全額負担とすることは検討しなかったのか」との質問に、教育長は明確な回答を避けました。

河村たかし市長に「物価高騰対策として、名古屋市でも給食費の全額補助を期限を区切って限定的であっても実施するべきではないか」と求めると 河村市長は「金持ち優遇になる」「経済的に困りの保護者の方には就学援助制度を利用することによりすでに無償としている」とこれまでの答弁を繰り返しました。

すべての子どもに教育を受ける権利を

みつなか議員は6月5日に行われた市民と教育委員会との懇談で寄せられた「就学援助は受けることに引け目を感じたり抵抗のある方もいる」「家計が大変だから勇気を出して申請したが援助の対象外だといわれすごく情けない思いをした」などの声を紹介し、「就学援助では(給食費)無償の家庭と(給食費の)保護者負担の家庭との分断がうまれる」とを指摘しました。



市民にのみなさんが署名を提出し、市教委に要請しました。日本共産党名古屋市議団も同席しました。

委員会審査で前向きな議論

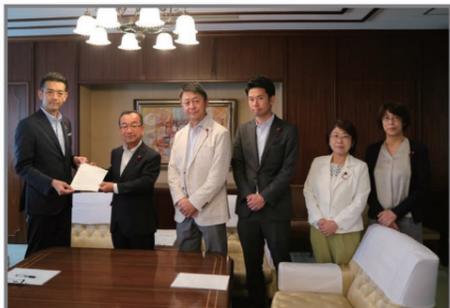
給食費補助の補正予算を審査した教育子ども委員会では他会派の議員から「個人的には無償化が一番いいと思っている」との発言や「給食費無償化を含めて物価高騰対策のさらなる検討」を求める意見がありました。

日本共産党議員が不在の委員会ですが、市民の運動と日本共産党の本会議での質疑が委員会での前向きな議論を起こしています。

議会運営委員会への少数会派の参加を

日本共産党名古屋市議員団は6月5日、一人会派の名古屋元氣と夢の会、日本維新の会名古屋市議員団とともに、成田たかゆき議長に「議会運営委員会への少数会派の参加に関する申し入れ」を行いました。

名古屋市議会の「議会運営委員会運営要綱」では、議会運営委員会の委員は、「5人以上の所属議員を有する団体」もしくは「他会派のすべてが会派と認めるもの」から選任するとしており、少数会派(非交渉会派)の参加は保障されていません。申し入れでは、所属議員5人未満の少数会派(非交渉会派)の議会運営委員会への出席と発言を認めることを求めました。



岡田 ゆき子 (北区)

財政福祉委員会



みつなか美由紀 (緑区)

土木交通委員会



田口 一登 (天白区)

総務環境委員会(副委員長)



名古屋城天守閣 木造復元

市民討論会 差別発言問題の検証で事業は中断!

6月定例会本会議 田口一登議員

「差別の象徴の城」にしてはならない

名古屋城バリアフリー市民討論会で車いす利用の参加者に対して、差別発言が続出しました。しかし発言時に主催した市側が制止しませんでした。日本共産党の田口一登議員は6月23日の本会議で、河村たかし市長の認識を問いました。



河村市長「障害者差別」と認める

身体的ハンディキャップへの差別表現について市長は、『聞こえなかった』というが、『聴き洩らした』のではないかと質問に市長は「突然の言葉で聞き取れなかった」などと釈明しました。田口議員は「私も当日の録画映像を見たがはっきり差別表現が聞こえた。市長は注意散漫だ」と批判しました。

田口議員は、身体的ハンディキャップへの差別表現にとどまらず、「わがまま、ずずうしい、我慢せえ」などの一連の発言について「現時点では『差別』と認めるか」とたずねました。



名古屋市役所本庁舎前で抗議する人々=13日

市長は「障害者基本本法や障害者差別解消法の理念に反するものであり、障害者差別である」とはっきり認めました。

障害者への配慮より「本物復元」優先

田口議員は、「市長は閉会挨拶で『熱いトークもあり、なかなか良かった』などと発言した。これは市として差別発言を無視し、容認したことになる」と指摘しました。

市長は「しっかり検証し再発防止に取り組む」と述べ、討論会の評価については回答を避けました。

「障害者への配慮よりも『本物復元』を優先する市長の態度が、差別発言の一因となったのでは」と、市長の認識をたずねました。しかし市長は質問には答えず、言い訳に終始しました。

田口議員は「市長は所信表明で人権施策の推進を表明した。そのためには、差別発言問題をしっかり検証するとともに、市長は自らの市政運営を謙虚に省みてほしい」と猛省を求めました。

天守閣木造化 工事着工の目途なし 木材保管 1億円の延長に反対



6月定例会本会議 岡田 ゆき子議員

名古屋城天守閣木造化事業における、木材保管の請負契約を、完成予定期日を暫定的に1年延長することが提案されました。昨年に続き2回目の延長です。岡田ゆき子議員が、7月4日の本会議で反対討論を行いました。

検証と信頼回復なくして議論はできない

河村市長がこだわる「本物復元」は、深刻な市民の分断を招き、障害者権利条約の肝である「他のものとの平等」を権利として保障する国際水準に、近づくどころか後退させる、重大な人権問題に発展しました。それは、行政運営の在り方まで問われることになり、その検証だけでも1年程度はかかるといわれています。

さらに、その検証を経て名古屋市は、障害当事者や市民との信頼回復に取り組まなければなりません。信頼回復なくして、議論を前に進めるわけにはいきません。



現天守閣の耐震改修を直ちに

外観を史実に忠実に再現した「現天守閣」は、エレベーターを利用して誰もが上階にのぼることができ、当時の木造天守に思いをさせ、また、戦後市民の復興のシンボルとして建設されたその重みを体感することができます。

岡田議員は「天守閣木造化事業はいったん白紙にし、差別の象徴の城にするのではなく、現天守閣の耐震改修に直ちに着手し、名古屋市が信頼回復の道に進む城として、活用せよ」と求めました。